

# 平成31年度 事業報告書

大慈ショートステイ

## 1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

## 2. 《平成31年度重点目標》

『SS充足率95%以上（退所後の実績）を維持・向上を目指し収入の安定を目指す』

### ① 顧客ロイヤリティを高めリピーター率の向上を目指す

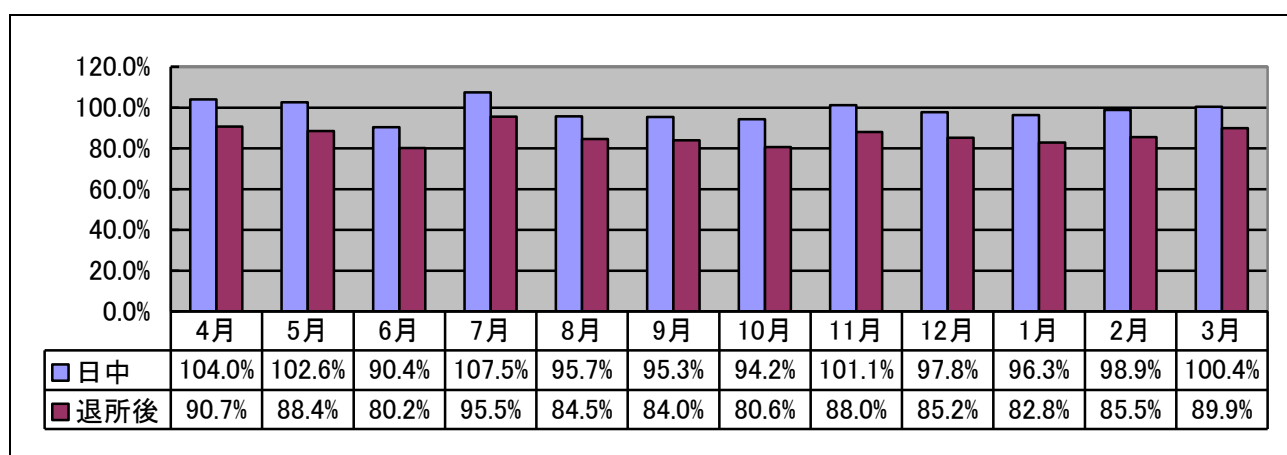
ロングショートのごゲストの状態を家族や他職種が共有し観察する事で、適切なケアができています。定期リピーターに関しても家族やケアマネジャーと連携取りながら月々のリピーターにつながっている。医療面、栄養面では介護職員、相談員、看護師、管理栄養士でゲストに安心して過ごして頂く為に問題点を話し合い、協力しながら問題解決へとつなげていく事ができた。又送迎面でもデイサービス主任、運転手、介護職員で協力しスムーズで安全な送迎業務ができています。

### ② 他事業所との連携強化（新規ゲスト目標：年間40件）

担当者会議など他事業所が集まる会議等には積極的に参加する事ができた。担当者ともコミュニケーションもとれ他職種の方とも顔見知りになることでそれぞれの職種の事が理解でき在宅ゲストの困り事などもアドバイスができる事もあった。デイサービスのゲストがショートステイを利用することも多くなり部署間で情報交換しながらスムーズに受け入れを実施することもできている。また緊急時の受け入れも関係部署とも連携がとれスムーズに受け入れられる様になり、相談員不在時は空室情報等を周知する事で受け入れの有無も迅速に判断できるようになったと考える。

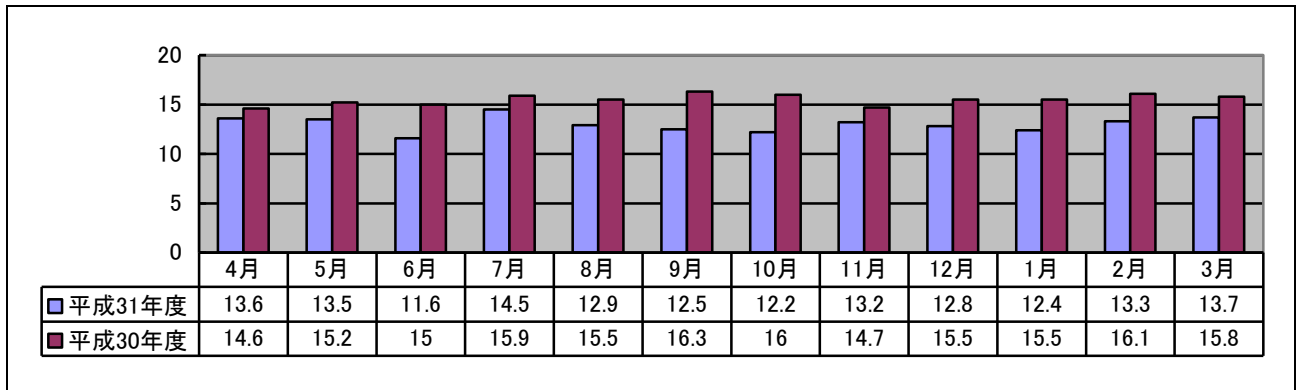
○充足率→日中96.68%、退所後86.28%

(前年平均 日中103.4%、退所後88.3%)



○平均人数→日中13.7人、退所後12.9人

(前年度平均 日中15.6人、退所後13.23人)



●介護度別年齢別等人数表（3月31日時点での実人数）

要介護度	平成31年度				平成30年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	1	0	80.1歳	0	0	0	—
支援2	16	4	12	87.7歳	6	0	6	86.6歳
1	34	14	20	84.0歳	60	18	42	82.9歳
2	67	23	44	90.4歳	74	35	39	88.2歳
3	116	56	60	81.2歳	227	92	135	83.5歳
4	114	29	85	89.3歳	62	16	46	84.1歳
5	99	25	74	82.1歳	80	32	48	81.7歳
合計	447	152	295		509	193	316	
平均介護度		3.1	3.4	3.3		3.1	3.1	3.1
平均年齢		78.8歳	88.4歳	85.1歳		79.1歳	86.9歳	83歳
最高年齢		95歳	99歳			94歳	101歳	
最小年齢		61歳	56歳			61歳	56歳	

<経営部門>

<相談援助部門>

<看護部>

<理学療法科>

<栄養科>

3. 《環境整備等》

4. 《地位貢献事業・防火防災報告》

5. 《職員会議・OFF-JT》

特別養護老人ホーム弥勒園同様

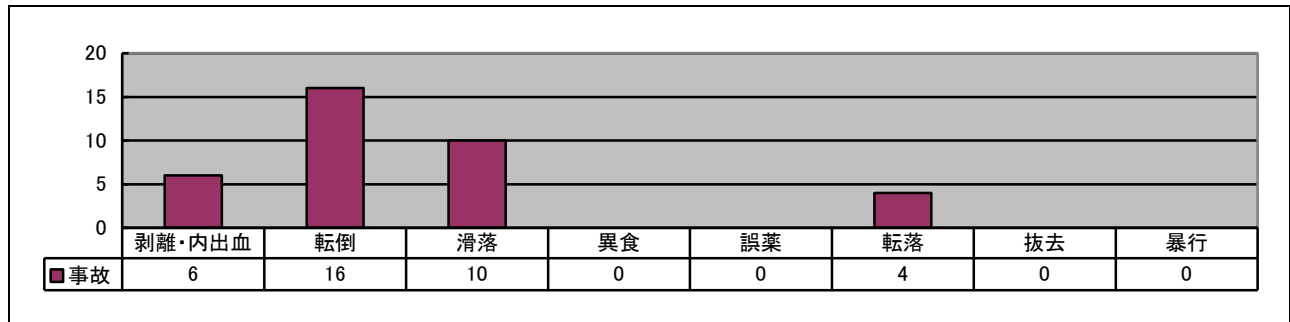
## 6. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

### ①報告件数

	平成31年度	平成30年度
事故件数	36件	46件

### ②発生内容別件数



### ③ まとめ

事故件数は減少したが、同じゲストが繰り返し転倒するような事故が発生した。又、立ち上がりや周辺症状なく、リスク予想を低く設定していたゲストが骨折に至る事故が発生した。普段、認知症の周辺症状がみられる方等を、リスクの高いゲストに設定し、予防策を講じているが、このことから個々に応じた対策ができるよう意識を高めていく。

## 7. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

### ○報告件数

報告件数	平成31年度			報告件数	平成30年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		3件	0件	3件

### ○まとめ

衣類の紛失による相談を受け付けた。苦情相談発生件数は少ないが、入退所時の荷物チェックが要因で起きるムダ・ムラが多く発生している状況である。その為、次年度においては荷物を一時預かりするなどの、仕組みの変換を行うこととする。

## 8. 《総括》

令和元年度新規契約者は53件であり、昨年度と大きく変わっていないが、充足率95%の目標には到達できていない。昨年度はロングショート確保してからの特養入所を心掛け大きく落ち込む事が少なかったが、今年度はロングショートからの特養入所が重なり次のロングショートゲストの確保ができず充足率が落ち込んだ。又、定期ゲストの利用曜日が週末に集中し、新規ゲストも重複することが多く利用に持ち込めないことも要因ではない

かと思われる。そのため特養の空床利用を有効に活用することも必要である。又、入退所時の荷物チェック簡素化でiPadを使用したがるが持参荷物によっては時間がかかるなど無駄な時間を要しているため体制を変える必要がある。今後は空床利用も有効活用するため1F・3Fの主任とも連携をとり充足率向上に努める。